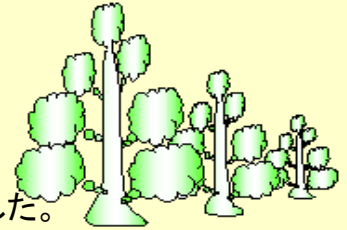


■ 選択・転換・節約の視点

昨年秋、全国36支部にお願いして「地球温暖化防止の取り組み」に関してアンケートを行い様々なご意見を頂きました。その中で、各支部で取り組まれている、或いはこれから取り組もうとされている活動に、朝日新聞記事で紹介されている

- ① 選択(セレクト)
- ② 転換(シフト)
- ③ 節約(セーブ)

の視点と共通するテーマが多くありました。



植樹は CO2 吸収活動

① 選択では、買い替え時に蛍光灯からLED電球へ切り換えるなどより省エネ商品を選択する
 ③ 節約では車の走行距離を10%減らす活動でCO2排出を抑制するなど、各支部で色々な取り組みが実施され、又検討されています。しかし②転換の考え方は未だ完全には浸透しておらず、転換の概念での活動はまだ実績も少ないのが現実です。

<<<今月は特に転換について考えてみます。>>>

転換とはいわゆる意識を切り替え＝転換して生活スタイルを換えることです。具体的には、共有可能なものを共有して使う考え方で、家庭内ではあたりまえですが、実際には実行が難しいテーマです。

例えば、カーシェアリングのような仕組みは、その地域でのインフラ整備が進まないと実現が難しいのが現状です。スイス連邦外務省の公式サイトによると、計画的にエコ地区建設をすすめ、新生活様式として、住民が手軽に利用できるカーシェアリングのシステムを構築しているとあります。

日本では未だこのような取り組みは緒についたばかりですが、考え方は私たちの生活に大いに参考になります。カーシェアリング事例では、利用者は車の走行距離を減らそうとする意識が働き、実際大幅に減っています。(出典・交通エコロジーモビリティ財団)

<<<具体事例として西中国支部では、>>>

夏期6回(週1回程度)「出来すぎ野菜の会員による宅配活動」に取り組まれています。この活動の発端は「もったいない」から始まっていますが、見方を変えると貴重な資源(ここでは野菜)を皆で共有して活用する生活スタイルの転換ともいえます。又、農地を守ることに寄与しています。



提供：西中国支部 岡本農園

このような活動を積み上げながら、環境負荷の少ない生活スタイルへシフトして行く転換の考えもこれからの私たちに課せられた課題ではないでしょうか？

CO2削減とバイ・パナソニックの実現に貢献しましょう。

「地球温暖化防止に私たちができること」 2011.02掲載

生活を見直し
出来るものから
始めてみましょう。



20113.1

パナソニック松愛会

横浜東支部 エコ担当 小川友通

横浜西支部 エコ担当 島山勝己